

1 単元名 もっと知って！私・僕のこと【Junior Sunshine5 Lesson4 I can draw pictures well.】

2 単元設定の背景

教材観

本単元は、「I can ～.」「I can't ～.」「Can you ～?」などの表現を用いて、自分のできることや得意なことについて伝え合うことをねらいとしている。自分のできることや得意なことは、子供にとって身近な話題であり、自分らしさを表現しやすい内容である。また、友達のことをもっと知りたいという思いを引き出しやすく、目的をもって英語でやり取りすることができる。本単元では、自分のできることを一方的に伝えるだけではなく、相手の話にリアクションを返したり、質問をしたりしながら対話を広げる活動を設定する。相手の反応を受けながら対話を広げる経験を積み重ねることで、「伝えること」と「聞くこと」を往還しながら、相手と共にコミュニケーションを構築する力を育むことが期待できる教材である。

児童観

本学級の子供は、外国語を用いたコミュニケーションへの関心が高い。事前アンケート（N=29）では、「英語で友達と話すことが好き」と回答した子供が82.8%（24名）、「相手のことをもっと知りたいと思いつながら聞いている」と回答した子供も82.8%（24名）であり、英語を通して友達と関わろうとする意欲が見られる。一方で、「英語で自分のことを伝えることに自信がある」と回答した子供は62.1%（18名）にとどまっている。自分のできることや得意なことを伝えたいという思いはあるものの、自信のなさから一文だけで終わってしまったり、相手からリアクションを受けても、その後のやり取りを続けることが難しかったりする子供も見られる。そこで本単元では、自分のできることや得意なことを伝え合う活動を通して、自分のことを知ってもらい喜びを味わうとともに、相手の反応や質問を受けながら対話を広げる経験を積み重ねることで、自信をもってコミュニケーションを図ろうとする子供を育みたい。

集団観

指導観

指導に当たっては、単元ゴールを明確に示し、目的や場面を意識したコミュニケーション活動を単元を通して繰り返し設定する。そのために、毎時間の帯活動として「リアクションゲーム」を取り入れ、質問・応答・リアクションの表現に継続的に慣れ親しませる。また、交流活動では、友達のことを聞き取り、絵で記録する活動を取り入れることで、相手の話をよく聞く必要性や、リアクションや質問を用いる必然性をもたせる。さらに、交流後には子供のやり取りを全体で取り上げ、対話を広げるための伝え方や聞き方の工夫を共有した上で再度交流する場を設けることで、学んだことを次のやり取りに生かしながら、対話を広げることができるようにする。

3 単元の目標及び計画（全8時間）

■単元の目標

「I can ～.」「I can't ～.」などの表現に慣れ親しみ、自分のできることや得意なことについて伝えたり、友達のことについて尋ねたりしながら、対話を広げて主体的にコミュニケーションを図ることができるようにする。

■単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「I can ～.」「I can't ～.」などの表現を用いて、自分のできることやできないことについて尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	相手に自分のことを知ってもらうために、できることや得意なことについて、伝え方を工夫しながら伝え合っている。	相手に自分のことを知ってもらうために、できることや得意なことについて、進んで伝えたり尋ねたりしようとしている。

■単元の計画

- 第1次 できることの表現に慣れ親しむ・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
 第2次 友達との対話を広げながら自分のことを知ってもらう・・・・・・・・・・3時間（本時1／3）
 第3次 自分らしい自己紹介をつくり、伝え合う・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間

4 本時の学習

■目標 「What can you do?」「I can ～.」などの表現を用いて、友達のできることにについて尋ねたり答えたりするとともに、リアクションや質問を交えながら対話を続けている。

■レジリエンスを発揮している子供の姿

英語が分からなくても、ジェスチャーや友達の言葉をまねしながら最後まで伝えようとしている姿。

■準備物 (T) ワークシート、掲示用カード (C) ワークシート

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全 : 全体の場合 小 : 小集団 個 : 個人) ㊟ : 留意点 ㊞ : 評価の観点 (方法)

学習事項	児童の活動	教師の働きかけとねらい	(集団)
1. 学習課題への接近	(1) リアクションゲームを行う。 〈質問カード〉 What sport do you like? 〈答えるカード〉 I like soccer. 〈リアクションカード〉 Wow! / Really? / Me too. / I see.	(1) 帯活動のリアクションゲームを行うことで、質問・応答・リアクションのやり取りに慣れ親しむことができるようにする。 ・相手の反応によって会話が長く楽しさを味わわせることで、本時の交流活動への見通しを高めることができるようにする。	(小) 友達とのやり取りを通して、リアクション表現に慣れ親しむ。
2. 学習課題の設定	(2) 学習課題を設定する。 友達のできることを、もっとくわしく知ろう。	(2) 「どうしたら会話がもっと続くだろう。」と問いかけることで、本時の課題意識をもつことができるようにする。	(全) 本時の目的を全員で共有する。
3. 学習課題の追求 (表現に慣れる) (友達とできることを伝え合う)	(3) チャンツに取り組む。 “I Can Jump” (4) 友達と交流する。 A: What can you do? B: I can play baseball. A: Oh! (野球の絵や言葉をかく) B: What can you do? A: I can swim. B: Nice! (水泳の絵や言葉を描く)	(3) 「I can ～.」の表現に慣れ親しむことで、自信をもって交流に臨むことができるようにする。 (4) 教師と子供でデモンストレーションを行い、活動の流れやワークシートへの記録の仕方を確認することで、安心して交流に取り組むことができるようにする。 ・交流の様子を見取りながら、相手のできることは分かったものの、もっと詳しく知りたいと感じられる場面や、リアクションや質問によって対話が続きたい場面を取り上げ、全体交流につなげられるようにする。	(全) 全員で歌って、安心できる雰囲気をつくる。 (小) 友達のできることを尋ねることで、相手のできることを聞き取り、ワークシートに記録できるようにする。
(対話を広げる工夫を考える)	(5) 交流を振り返る。 ・ Can you ～? って聞いた話が続いた。 ・ 質問すると友達のことがもっと分かった。	(5) 交流①で見られた子供のやり取りを取り上げ、「どんな話し方をすると友達のことがもっと分かったかな。」と問い返すことで、リアクションや質問が対話を広げることに気付けるようにする。	(全) 友達のよい聞き方を共有し、次の交流の見通しをもつ。
(工夫を生かして対話を広げる)	(6) 再度友達と交流する。 A: What can you do? B: I can play baseball. A: Wow! Can you play soccer? B: Yes, I can. A: Nice! A: What can you do? B: I can play the piano. A: Wow! Can you play the guitar? B: No, I can't. A: I see.	(6) 交流①で見つけた伝え方や聞き方を意識しながら交流するよう促したり、リアクションや「Can you ～?」を用いて対話を続けている姿を価値付けたりすることで、相手の反応を受けながら対話を広げるよさに気付けるようにする。 ㊟ 英語が分からなくても、知っている英語やジェスチャー、友達の言葉をまねしながら最後まで伝えようとした姿を価値付ける。 ㊞ 相手の話にリアクションを返したり質問したりしながら、自分から対話を続けようとしている。(観察・発話)	(小) リアクションや質問を意識して友達と交流することで、対話を広げることができるようにする。
4. 本時のまとめ	(7) 活動の振り返りを行う。 ・ 質問すると新しいことが分かった。 ・ 次も「Can you ～?」を使いたい。	(7) 交流①と交流②を比較しながら振り返ることで、自分の対話の変化や次時に生かしたいことを明確にもてるようにする。	(個) 自分の学びを振り返ることで次時への見通しをもつ。